

消化器外科

1. スタッフ

科長（兼）教授 土岐 祐一郎

その他、教授 9 名、准教授 2 名、講師 2 名、助教 18 名、医員 69 名、外来事務補佐員 1 名、病棟事務補佐員 2 名（兼任を含む。また、教授、助教は特任、寄附講座を含む。）

2. 診療内容

当科の診療の中心は、消化器悪性腫瘍に対する治療、炎症性腸疾患や機能的消化管疾患に対する外科治療、肝移植、膵移植を始めとする移植医療など難治性疾患に対する治療と研究である。平成 30 年度には 897 件の手術を施行し昨年より増加した。

予後の悪い進行癌に対して、生存率の向上のために積極的な手術療法を行っているが、一方で化学療法や放射線療法と外科手術を組み合わせた集学的治療法の開発を行っている。さらに、最近では低侵襲の治療法として鏡視下手術の開発も積極的に取り組み、通常の手術と比較して治療成績を低下させずに手術を行うフィールドを拡大してきた。

当科は担当臓器別に、上部消化管、下部消化管、肝胆膵・移植の 3 つの分野で活動している。

上部消化管グループは、悪性腫瘍を中心に食道・胃疾患を担当する。食道癌においては、進行度に応じて術前・術後の補助療法を含めた食道癌の集学的治療体系を開発しており、国内でもトップレベルの症例数を誇っている。胃癌では、早期癌だけではなくほぼ全ての進行癌に対して腹腔鏡下胃切除を行っており、パイオニアとして全国有数の症例数を誇っている。また、平成 30 年 4 月 da Vinci を用いたロボット支援下胃切除が保険収載されたこともあり積極的に推進し、関西で 1 位の手術実績を誇っている。消化管間質腫瘍(GIST)に対しては、分子標的治療と外科治療を組み合わせた先進治療により、予後の大幅な改善を目指している。また、食道癌術後逆流に対する内視鏡的逆流防止弁形成術を世界に先駆けて行うなど、より低侵襲の手術の開発に取り組んでいる。さらに、胃食道逆流症、アカラシア、病的肥満症など一般病院では取り扱わない疾患も含め幅広い領域も同時にカバーしている。5-ALA を用いた腹膜播種診断、難治癌に対する癌ワクチンをはじめとする免疫療法などの治験も行っている。グレリンというホルモンで手術後の体重減少対策にも取り組んでいる。

下部消化管グループは、腹腔鏡、内視鏡、TEM などの低侵襲手術を早くから取り入れ、現在では大腸癌手術の大半を占めている。特に単孔式内視鏡手術は、本邦で初めて成功して以来これまでに 600 例以上経験し、当科での標準術式となっている。また、da Vinci を用

いた直腸癌のロボット手術も行っている。一方、高度進行癌や直腸癌局所再発など一般施設では諦めるような症例にも手術と共に放射線、化学療法を駆使した集学的治療に取り組んでおり、国内でも有数の治療件数を誇る。潰瘍性大腸炎、クローン病などの炎症性腸疾患については、消化器内科との連携の下、また厚生労働省の研究班の構成員として先進的な治療に取り組んでいる。基礎研究の成果の臨床応用もグループの特長であり、難治性皮膚瘻に対する自己脂肪組織由来間葉系前駆細胞を用いた組織再生医療の臨床応用なども行ってきた。

肝胆膵・移植グループは、肝胆膵領域の癌治療と、肝・膵移植を実施している。肝胆膵領域癌の治療方針の決定は、消化器内科、放射線科とともに三科で検討し、種々の癌治療の中で最適な方法を選択している。肝細胞癌については、他施設では治療できない門脈・下大静脈に進展した症例などにも積極的に取り組み好成績を収めている。胆道癌においては、難治癌である肝門部胆管癌・胆嚢癌の拡大切除にも積極的に取り組んでいる。膵臓癌に対しては、切除のみならず、化学放射線療法や新規抗悪性腫瘍剤を用いた多剤併用療法にも取り組んでいる。さらに、これら肝胆膵領域癌における全国規模の厚生労働省班研究の主要参加施設でもある。また、肝・膵移植については、脳死肝移植・脳死膵移植実施施設に認定されている。さらには生体部分肝移植術も積極的に施行し、末期肝疾患、先天性代謝異常疾患や肝細胞癌などの移植適応疾患に対して、日本の臓器移植医療の中核病院の 1 つである。加えて、組織移植としての膵島移植の実施認定施設でもある。

次世代内視鏡治療学では、企業と共同開発した新しい医療機器を用いて、経管腔的内視鏡手術 (NOTES) や管腔内手術 (単孔式胃内手術) 等、新しい低侵襲内視鏡治療法やデバイスの開発に積極的に取り組んでいる。

先進癌薬物療法開発学では、ガイドラインに準じた形で治療に当たりながらも、新薬の開発治験や抗がん剤などの薬剤に関する新しい治療法など多岐にわたる臨床研究を押し進めている。昨年は消化器の抗がん剤治験として第 I 相試験を導入するなどさらにアクティビティが上がっている。疾患データサイエンス学では、消化器癌の領域で TAS102 をはじめとした核酸アナログや分子標的薬を用いた臨床試験に関わり、特にアンメットニーズが高い疾患を対象にして、各講座との連携のもとに基礎及び臨床研究の活動をしている。

また臨床腫瘍免疫学では、がん免疫療法として抗体医薬・がんワクチンなどを用いた様々な治験を実施、特に制御性 T 細胞を標的とした多施設共同医師主導治験では主導的役割を担い、治験参加症例の外来診察に当たっている。

3. 診療体制

(1) 外来診察スケジュール

外来診察は、月曜日から金曜日の午前・午後すべてに外来枠を保有しており、すべての曜日で初診患者を受け入れている。特殊外来として、肝移植ドナー外来を木曜日午後に開設している。

(2) 外来検査スケジュール

外来では上部及び下部内視鏡検査を実施している(表1)。

(3) 病棟体制

病棟は、約1~3名の研修医、18名の病棟主治医及び助教以上の教員による診療体制を敷いている。診断・治療方針は、疾患グループ別カンファと診療科全体のカンファでの討議によって決められている。月曜日から金曜日まで週5日間に予定手術枠を保有しているが、夜間休日の緊急手術にも対応できるように、教員層の当直に加え医員は交代勤務制を執っている。

表1 検査予定表

上部消化管内視鏡	木曜日	内視鏡センター
下部消化管内視鏡	金曜日	内視鏡センター

4. 診療実績

(1) 外来診療実績

平成30年度の主要疾患外来患者数は、過去最高の合計23,812人(平成29年:21,187人)に上る。また、特殊外来として多くの移植患者の診療を行っている。外来検査として、内視鏡検査を1,494件施行した。

主要疾患外来患者数(平成30年)

新患者数 794人 (746人)
 外来患者総数 23,812人 (21,197人)

(2) 入院診療実績

平成30年度の月平均入院患者数は3064人で病院全体の10.9%と、昨年より増加しています。手術件数は897件であった。入院患者の大半は悪性疾患患者で、手術または放射線・化学療法を目的とした入院である。他に、内視鏡治療、ERCPによる診断等を目的とした患者も受け入れている。また、生体部分肝移植患者、肝臓提供者、脳死肝移植希望患者の移植前検査、膵移植患者の適応評価のための検査入院、術後定期検査など臓器移植関連の入院も増加している。

1) 疾患分類別手術件数

疾患	全体
上部	294
下部	367
肝胆膵	213
合計	854

2) 主要疾患手術件数

分類	集計
食道癌	112
胃癌	112
大腸癌	206
GIST	22
肝癌	59
転移性肝癌	19
胆道癌	36
膵癌	39
生体肝移植	1
肝移植提供者手術	5
脳死肝移植	2
炎症性腸疾患	56
膵(腎)移植	3

5. 先進医療実績

(1) 先進医療

- ・ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術

6. その他

(1) 認定施設

外科学会認定施設、消化器外科学会認定施設、消化器病学会認定施設、大腸肛門病学会認定施設、消化器内視鏡学会教育施設、肝胆膵高度技能医修練施設、脳死肝移植認定施設、脳死膵移植認定施設、膵島移植認定施設、生体部分肝移植実施施設

(2) 学会指導医・専門医など(常勤医)

- ・日本外科学会 指導医 19名、専門医 24名
- ・日本消化器外科学会 指導医 20名、専門医 24名
- ・日本消化器病学会 専門医 13名
- ・日本肝臓学会 専門医 5名
- ・日本胆道学会 指導医 3名
- ・日本大腸肛門病学会 指導医 4名、専門医 7名
- ・日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 36名
- ・日本内視鏡外科学会 技術認定医 15名
- ・日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医 3名
高度技能認定医 4名
- ・日本食道学会 食道外科専門医 5名